

2014 年度 クリスチャン・レオッタ氏 ピアノ 特別講義

1. 日 時 : 2014年 10 月 29 日(水)13 時 30 分～16 時 45 分
2. 場 所 : ザ・カレッジ・オペラハウス
3. 対象学生【必修】 : (3 限) 大学ピアノ専攻 3・4 年(演奏家特別コース含む)
(4 限) 大学院ピアノ研究室
大学ピアノ専攻 1・2 年(演奏家特別コース・指導者コース含む)
他聴講可
4. 講 師 紹 介 : クリスチャン・レオッタ氏 (Christian LEOTTA)

裏面参照

.....

.....

.....

5. 講 義 概 要 :

《 公開マスタークラス 》

1. 小倉 尋華 (大学ピアノ演奏家特別コース 3年)

R.シューマン = F.リスト 献呈 イ長調 S.566

F.リスト バラード 第2番 口短調 S.171

2. 西根 里絵 (大学院ピアノ 1年)

L.v.ベートーヴェン ピアノソナタ第21番 ハ長調 op.53

“ワルトシュタイン”

通訳:大前 努 氏

(日本イタリア・オペラ座総監督、音楽学者)

Christian LEOTTA
クリスチャン・レオッタ

ロザリン・テューレックには、「生まれながらの驚くべき音楽性を身につけたたぐいまれな才能」と、また、カール・ウルリッヒ・シュナーベルからは、「古典派、ロマン派の作曲家の指示に対する彼の解釈は素晴らしくかつ完璧であり、彼らの意図を理解している」と評された。

カタニア生まれ。7歳よりピアノを始める。ミラノのG.ヴェルディ音楽院のマリオ・パトゥッツィのもとで学んだ後、コモ湖のテオ・リーヴェン国際ピアノ財団及びオクスフォードのテューレックバッハ研究財団で学ぶ。

2002年にモントリオールにて若干22才で初めてベートーヴェンのピアノソナタ全32曲を披露したことで、その偉業を成し遂げたもっとも若いピアニストとなる。それは60年代にテルアヴィヴにおいてダニエル・バレンボイムが聴衆を前に成し遂げて以来の出来事であった。以来、ベートーヴェンのピアノソナタ全32曲演奏を、13回に渡り、欧米の主要都市で披露。この芸術活動により、2004年イタリア共和国大統領より功労賞を授けられる。

興業の成功と高い評価をうけ、2007年にはアトマ・クラシック社と全32曲の10枚のCDへの録音に取りかかり、2008年から2011年にかけてシリーズの内19曲のソナタが収められた最初の三部がリリースされ、それは、国際的にも非常に高い評価をうけ、レオッタ自身「現代の最も優れたベートーヴェン弾きの一人」として評され、CDも「今まで世に出た一連の中で最も卓越した作品」とされた。

2010年にグアダラハラ・デゴラド劇場でなされた、オーケストラとピアノのための5曲の協奏曲、ピアノ、合唱、オーケストラのためのベートーヴェンの幻想曲の一連の演奏において、聴衆も批評家も魅了するクリスチャン・レオッタの疎通性に優れた才能をも披露し、新聞紙面では、「レオッタは並外れている。激しく抗いがたいリリズム、奏法と共に押し寄せる体感する熱情」と評される。

ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、RAI 国立交響楽団、ミラノ G.ヴェルディ交響楽団等と世界の主要ホールにて共演。